

わたしの小さな目

小 二

わたしは、生まれたときから目が小さいです。「がんけんれつきよう小しょうこうぐん」というびよう気で、まぶたを上げるきん肉がなくて下がっています。左目と右目の間がはなれています。し力もわるいので、めがねを二さいのときからかけています。わたしは、赤ちゃんのときから、いろいろな大きなびよ

ういんでたくさんけんさをしました。今も一か月に一回はびよういんに行つて、先生にみてもらつています。びよういんはいつもこんでいるし、遠いのでめんどうくさいです。わたしは、そんな自分の目がすごくいやです。かなしいできごとにもたくさんあります。

お出かけした場しよで

「まぶしいの？」

「ねむいの？」

と、声をかけられることがあります。

お友だちからは、

「ブス、へんな目ー。」

と言われたこともありません。

お母さんに話すといつても、

「みんなちがって、みんないいんだよ。」

と言われます。わたしは、さべつをしてはいけないと思います。

二年生になって、一年生の新しいお友だちが入ってきました。わたしは、うれしくて一年生とあそんだり、学どうのことを教えたりしました。

ある日、学どうのお昼の時間に、一年生の女の子にかた

をたたかれました。わたしが後ろをふりむくと

「目が小さいね。」

と一年生から言われてしまいました。とてもかなしい気持ちになって、なきそうになりました。すると、となりにいたAちゃんが、

「そういうことを言っちゃだめだよ。なんでそういうこと言うの。」

と言いました。わたしはうれしい気持ちになりました。

「ごめんね。わたしがわるかったよ。」

と一年生の女の子に言われま
した。

した。
わたしは目のことで、学校

「いいよ。もう言わないでね。
みんなちがって、みんないい
んだからさ。」

にもあります。でも、やっぱり
学校に行つて、お友だちとお

とわたしは言いました。そし
てAちゃんに

べんきようしたり、あそんだ
りすることは楽しいです。一

「ありがとう。大すきだよ。」
と言うと

年生の女の子も、わたしの目
は、ふつうの人とちよつとち

「どういたしまして。自分が
もし言われたらいやだし、
ふつうのことだよ。めがね
をしていて、アクセサリー

がうので、気になったのかも
しれません。いじわるな気も
ちで言ったのではないと思ひ
ます。

みたいでいいよね。」
とAちゃんがわたしに言いま

わたしは、もう自分の目が
いやではありません。みんな

いろいろな人がいます。わたし、
しもこまっぺにいる人がいたら、
声をかけて、たすけたいと思
います。